

小学6年 算数 — 解答と解説

1

(1)	(2)	(3)
519	5.1	$2\frac{1}{8}$
21	22	23

(4)	(5)
7	$1\frac{7}{9}$
24	25

(6)			
ア	3.1	イ	0.01
(完答) 26			

2

(1)	(2)	(3)
$\frac{2}{3}$ 倍	28	3 個
27	28	29

(4)	(5)	(6)
25	10 個	3 通り
30	31	32

3

(1)	(2)	(3)
午後 2 時 57 分	14 分	午後 2 時 53 分
(完答) 33	34	(完答) 35

4

(1)	(2)	(3)
毎分 0.02 m ³	0.6 m	$\frac{7}{15}$ m
36	37	38

5

(1)		(2)		(3)	
毎時	15	km	毎時	9.6	km
		39			40
				41	

6

(1)		(2)		(3)	
9 : 10		14 : 5		2 : 3	
		42			43
				44	

7

(1)		(2)		(3)	
525		2.5		21 日	
		45			46
				47	

8

(1)			(2)		
①	78.5	cm	②	3162.5	cm ²
			48		
					49
					50

(配点) 各5点×30 計150点

【解 説】

② (1) (割合)

たての長さをもとにしているので、 $20 \div 30 = \frac{2}{3}$ (倍)と求められます。

(2) (比の性質)

$12 \div 3 = 4$ (倍)なので、Aに入る数は、 $7 \times 4 = 28$ です。

(別解) 内項の積と外項の積が等しくなることを利用して、 $A \times 3 = 12 \times 7$ より、 $A = 12 \times 7 \div 3 = 28$ と求めることもできます。

(3) (数の性質)

27と45の最大公約数は9なので、27と45の公約数は9の約数です。

9の約数は、1、3、9なので、27と45の公約数は全部で3個あります。

(4) (いろいろな数列)

$1 \times 1 = 1$ 、 $2 \times 2 = 4$ 、 $3 \times 3 = 9$ 、 $4 \times 4 = 16$ 、…のように、1から順に同じ整数どうしの積がなっているので、Bに入る数は、 $5 \times 5 = 25$ とわかります。

(別解) $4 - 1 = 3$ 、 $9 - 4 = 5$ 、 $16 - 9 = 7$ 、…のように、なっている数は、右に進むと増え方が3、5、7、…と大きくなっています。ですから、Bに入る数は、 $16 + 9 = 25$ とわかります。

(5) (場合の数)

「5個の中から3個を選ぶ場合の数」は、「5個の中から選ばない2個を選ぶ場合の数」と同じです。ですから、5個の点のうち、「三角形の頂点にしない2個の点を選ぶ」と考えると、全部で $5 \times 4 \div 2 = 10$ (個)とわかります。

(6) (条件不足のつるかめ算)

合計金額の十の位を0にしなければならないので、80円のチョコレートの個数として考えられるのは5個だけです。

残りの $800 - 80 \times 5 = 400$ (円)を100円のチョコレートと50円のチョコレートで作ることを考えると、組み合わせは右の表のようになり、全部で3通り考えられます。

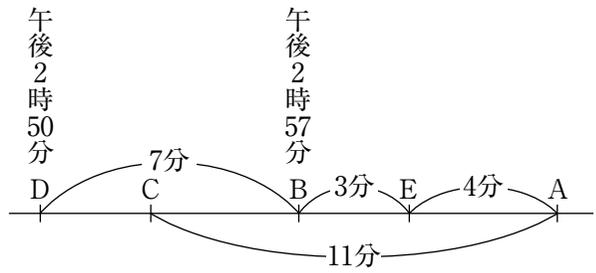
80円(個)	5	5	5
100円(個)	3	2	1
50円(個)	2	4	6

③ (条件整理)

(1) DがP駅に着いた時刻は、午後3時-10分=午後2時50分です。

BはDより7分遅くP駅に着いていることから、午後2時50分+7分=午後2時57分とわかります。

- (2) 問題の条件を図に整理すると、右のようになります。
 図より、最初にP駅に着いた人はDで、最後にP駅に着いた人はAとわかります。
 よって、 $7+3+4=14$ (分)遅くP駅に着いたことがわかります。



- (3) 右上の図より、午後2時57分+3分+4分-11分=午後2時53分とわかります。

④ (水量の変化とグラフ)

- (1) グラフより、満水になるまでに80分かかったことがわかります。
 水そうの容積は $(0.4+1.2) \times 1 \times 1 = 1.6$ (m^3)なので、水は $1.6 \div 80 = 0.02$ ($\text{m}^3 / \text{分}$)で入れたことがわかります。
- (2) グラフより、12分後にアの水面が仕切りの高さと同しくなることがわかります。アの底面積は $0.4 \times 1 = 0.4$ (m^2)で、アの部分に仕切りの高さまで水を入れたときの水の体積は $0.02 \times 12 = 0.24$ (m^3)なので、水そうの中の仕切りの高さは $0.24 \div 0.4 = 0.6$ (m)とわかります。

(別解) 満水になるまで80分、仕切りの高さまでのすべての部分に水が入るのに48分かかっているため、仕切りの高さは水そうの高さの $\frac{48}{80}$ 倍になります。 $1 \times \frac{48}{80} = \frac{3}{5}$ (m)

- (3) グラフより、48分後にイの水面が仕切りの高さと同しくなることがわかるので、水そうの容積の半分の水を入れたときの $80 \div 2 = 40$ (分後)はそれより前です。
 水そうの容積の半分は $1.6 \div 2 = 0.8$ (m^3)で、容積の半分まで水を入れたときイの部分に入っている水の体積は $0.8 - 0.24 = 0.56$ (m^3)なので、イの部分の水の深さは $0.56 \div (1.2 \times 1) = \frac{7}{15}$ (m)とわかります。

(別解) 水そうの容積の半分の水が入るのは、水を入れ始めてから $80 \div 2 = 40$ (分後)です。

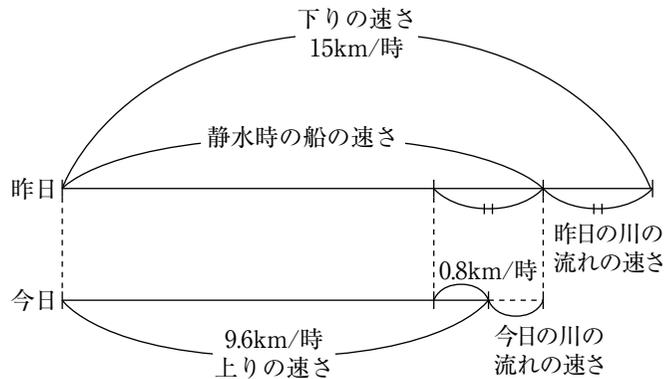
グラフより、イの部分に水が入っているのは $48 - 12 = 36$ (分間)で、水を入れ始めてから40分後までにイの部分に水が入るのは $40 - 12 = 28$ (分間)です。

$$0.6 \times \frac{28}{36} = \frac{7}{15} \text{ (m)}$$

⑤ (流水算)

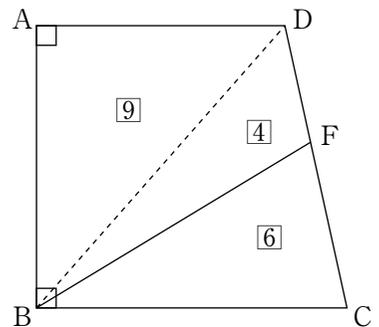
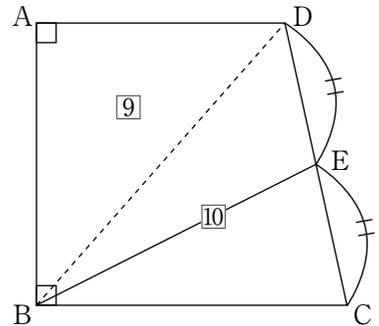
- (1) 72km下るのに4時間48分かかっているため、 $72 \div 4 \frac{48}{60} = 15$ (km / 時)です。
- (2) 72km上るのに7時間30分かかっているため、 $72 \div 7 \frac{30}{60} = 9.6$ (km / 時)です。

- (3) 「昨日の下りの速さ」と「今日の上りの速さ」の関係は右のように線分図に表せます。図より、昨日の川の流れの速さは $(15 - 9.6 + 0.8) \div 2 = 3.1$ (km/時) で、今日の川の流れの速さは $3.1 - 0.8 = 2.3$ (km/時) とわかります。



⑥ (面積と辺の比)

- (1) 三角形ABDと三角形DBCは高さが等しいので、面積比は底辺の比と等しく、 $18 : 20 = 9 : 10$ です。
- (2) (1)より、三角形ABDの面積を⑨、三角形DBCの面積を⑩とします。
 三角形DBEと三角形EBCは、底辺をDE、ECとすると底辺も高さも等しいので面積比が1 : 1となり、三角形DBEの面積=三角形EBCの面積は $⑩ \times \frac{1}{1+1} = ⑤$ と表せます。
 よって、四角形ABEDと三角形EBCの面積比は、 $(⑨+⑤) : ⑤ = 14 : 5$ です。
- (3) 同様に、三角形FBCの面積は $(⑨+⑩) \times \frac{6}{13+6} = ⑥$ 、三角形DBFの面積は $⑩ - ⑥ = ④$ と表せます。
 三角形DBFと三角形FBCは高さが等しいので、DF : FCは三角形DBFと三角形FBCの面積比に等しく、 $④ : ⑥ = 2 : 3$ です。

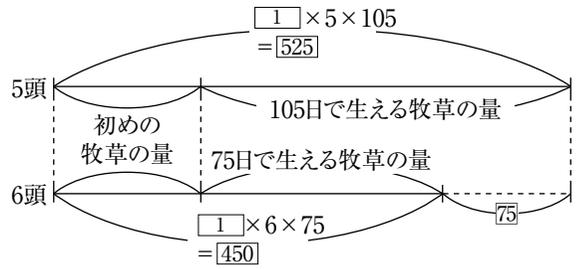


⑦ (ニュートン算)

- (1) 牛1頭が1日で食べる牧草の量を①とすると、牛5頭が105日で食べる牧草の量は $① \times 5 \times 105 = ⑤25$ と表せます。

- (2) 線分図に整理すると右のようになります。

105-75=30(日)で生える牧草の量は、 $525-450=75$ で、1日に生える牧草の量は、 $75 \div 30=2.5$ となります。

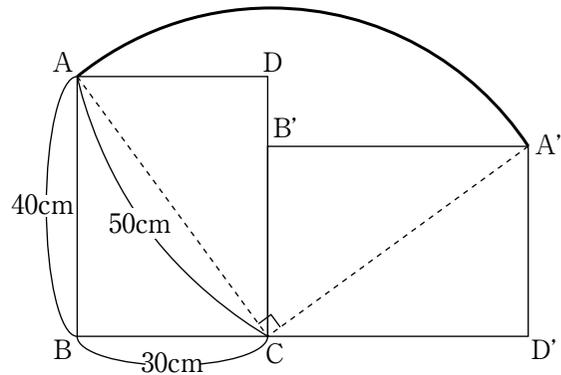


- (3) 初めの牧草の量は、 $525-2.5 \times 105=450-2.5 \times 75=262.5$ です。

この牧場の牧草をすべて食べつくすのに、15頭の牛を放すと
 $262.5 \div ((1) \times 15 - 2.5) = 21$ (日)かかります。

⑧ (平面図形の回転)

- (1) ① 頂点Aが通ったあとは、右の図の太線のように、半径50cm、中心角90度の扇形の弧の長さとなるので、 $50 \times 2 \times 3.14 \times \frac{90}{360} = 78.5$ (cm)です。



- ② 長方形ABCDが通った部分は、右上の図の太線と直線で囲まれた部分になります。

三角形ABCと扇形ACA'と三角形A'CD'を合わせた形なので、

$$30 \times 40 \div 2 + 50 \times 50 \times 3.14 \times \frac{90}{360} = 3162.5 \text{ (cm}^2\text{)} \text{です。}$$

- (2) 右の図のように、補助線を引き、等しい角や長さに同じ印をつけ、交点をE、Fとします。

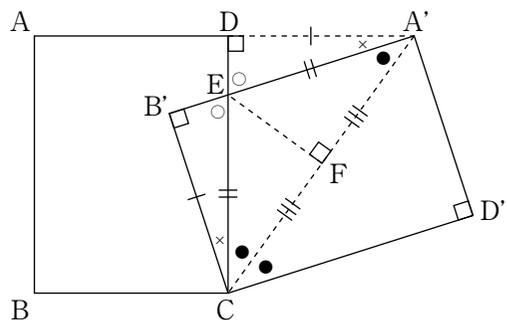
三角形DEA'と三角形B'ECは合同なので、三角形ECA'は二等辺三角形です。

三角形EFA'と三角形A'D'Cは相似

で、相似比はFA' : D'C = (50 ÷ 2) : 40 = 5 : 8より、

$$EA' = 50 \times \frac{5}{8} = 31 \frac{1}{4} \text{ (cm)}, B'E = 40 - 31 \frac{1}{4} = 8 \frac{3}{4} \text{ (cm)} \text{とわかります。}$$

$$8 \frac{3}{4} \times 30 \div 2 = 131.25 \text{ (cm}^2\text{)}$$



小学6年 社会 — 解答と解説

1

問1	問2			問3	問4		
ウ	新潟県			ア	減反(げんたん)		
21	22			23	24		
問5	問6			問7	問8	問9	
イ	(1)	イ	(2)	ア	ア	ウ	エ
25	26			27	28	29	30

2

問1									
(1)	ア	(2)	ウ	(3)	イ	(4)	エ	(5)	四日市 <small>(市)</small>
31	32			33	34		35		

問1				問2				
(6)	環境基本 (かんきょうきほん)	(法)	(1)	イ	(2)	P	M	(2.5)
36				37		38		

問2																			
(3)	捨	て	た	も	の	を	新	た	な	製	品	の							
	原	料	と	し	て							再	利	用	す	る	こ	と	。
39																			

3

問1			問2		問3	
譜代(ふだい) (大名)			ウ		(1) ア	
40			41		42	

問3											
(2)	参	勤	交	代	の	費	用	が	藩	の	
	財	政	を	圧	迫	し	た	。			
43											

問4	問5	問6
絵踏 (えふみ)	出島	工
44	45	46

問7		問8	問9	問10
(1) イ	(2) 目安 (めやす) (箱)	ウ	工	ア
47	48	49	50	51

問11	問12		問13	問14
ウ	(1) 工	(2) ア	工	徳川慶喜 (とくがわよしのぶ)
52	53	54	55	56

4

問1	問2		問3	問4
イ	(1) 八幡 (やはた) (製鉄所)	(2) ア	工	イ
57	58	59	60	61

問5	問6	問7	問8	問9
二十一 (か条の要求)	ウ	工	ウ	(1) イ
62	63	64	65	66

問9			問10						
(2) 日米	安	全	保	障	条約	石	油	危	機
67			68						

(配点)

② 問2 (3) ③ 問3 (2) 各4点
上記以外 各2点 計100点

【解説】

① 日本の農業に関する問題

問1 2012年の米の品種別生産量割合は、米穀安定供給確保支援機構の資料によるとコシヒカリが約37.5%で第1位となっています。以下ひとめぼれ、ヒノヒカリ、あきたこまちの順になっています。

問2 2015年の都道府県別収穫量は新潟県、北海道、秋田県、山形県の順になっています。地方別では東北地方が約27.9%を占め第1位となっています。

問3 代かきは4月から5月頃にかけて行う作業で、肥料を全体にゆきわたらせ、苗の育ちをよくする目的で行います。イは田起こし、ウは中干し、エは田植えの説明です。

問4 減反政策は1970年頃から実施されている、米の需要量と供給量のバランスを取るための政策で、何も栽培しない休耕と、他の作物を栽培する転作の2つの方法があります。2018年に廃止されることが決定していますが、これは国から補助金をもらって国際競争力のない作物をつくる農業から、輸出できる作物を生産する農業へ転換させるねらいがあります。

問5 環太平洋パートナーシップ協定(TPP)は、太平洋を取りまく12ヶ国が、関税を含む様々な障壁を取り除き、貿易や投資を自由化することで経済を活性化させることを目的とする協定で、2015年の10月に大筋合意に達しました。FTAは自由貿易協定、EPAは経済連携協定、LCCは格安航空会社のことです。

問6 (1) アは乳用牛、イは豚、ウは採卵鶏、エは肉用若鶏を示しています。

(2) 松阪牛は三重県内で最も長く肥育

された黒毛和牛に対しての呼び方です。岩手県では前沢牛などのブランド牛が生産されています。

問7 日本人の肉の消費量は、BSEの流行により牛肉の消費量が減少したこともありましたが、基本的には増加傾向にあります。

問8 オーストラリアが約54.1%を占め第1位となっています。以下アメリカ合衆国、ニュージーランドと続きます。

問9 畜産業は1960年代から、洋風の食事が広まってきたことなどから発達してきましたが、外国との競争が厳しいなどの理由により畜産農家の減少は続いています。近年では豚や鶏などを中心に大規模な飼育が行われるようになってきましたが、外国から畜産農家を減らすように求められたことはありません。

② 環境に関する問題

問1 (1) Aは新潟水俣病の発生した阿賀野川流域、Bはイタイイタイ病の発生した富山県神通川流域のことです。

(2) 化学工場からの排水に含まれていた有機水銀により、神経障害などを起こす水俣病や新潟水俣病が発生しました。イタイイタイ病はカドミウムにより引き起こされた病気です。カドミウムは亜鉛の生産にともなって生成される物質で、メッキや合金などに使用されています。

(3) 足尾銅山は1610(慶長15)年に発見されました。17世紀後半には実質的に廃坑となりましたが、明治時代に新しい技術を導入して再開され1973年に閉山となりました。明治時代に鉱毒などにより、渡良瀬川沿岸の田畑などに大きな被害を出しました。

(4) 地盤沈下は地下水の汲み上げや埋立地の軟弱な地盤などが原因で地面が沈下する現象で、建築物が傾いたり壁面がひび割れたり、地中の埋設物が破損するなどの被害が生じます。

(5) 三重県四日市市では、石油化学コンビナートから排出された亜硫酸ガスが原因で、周辺の住民にぜんそくなどの呼吸器障害が発生しました。

(6) 複雑化する環境問題に対応するために、公害対策基本法に代わって環境基本法が制定されました。「現在及び将来の国民の健康で文化的な生活の確保に寄与するとともに人類の福祉に貢献すること」が目的となっています。

問2 (1) 消防車が緊急時にサイレンを鳴らして走行することは、認められています。工事や空港周辺などの音に加えて、近年では生活騒音が問題になっています。

(2) PM2.5はディーゼル車の排気ガスや工場の排煙などに含まれている、大気中に浮遊している小さい粒子です。この粒子は微少なため肺の奥まで入りやすく、人体に悪い影響を与えると考えられています。

(3) リサイクル（再資源化）は、リデュース（ゴミの減量）、リユース（再利用）と並んで循環型社会実現のために大切なこととなっています。

③ 江戸時代に関する問題

問1 譜代大名は与えられた石高は多くありませんでしたが、老中や若年寄といった江戸幕府の要職につきましました。江戸末期で約150家ありました。

問2 大目付は老中の下で大名を取り締ま

る役職です。旗本から4～5名が選任されました。旗本や御家人を取り締まる役職は目付です。

問3 (1) アは1649年に幕府が農民に対して出した、「慶安のお触書」にある内容です。大名ではなく百姓に対して書かれていました。「慶安のお触書」については幕府が出したことに対する疑問もあがっています。

(2) 江戸幕府は大名を統制する制度として、参勤交代を1635年に武家諸法度に加えました。これにより大名は江戸と国元を原則1年交代で往復すること、妻子は江戸に住むことなどが定められ、この結果大名・藩の財政は非常に窮乏することになりました。『出入捷覧』は松江藩の74年間の財政の推移を年次別に整理したもので、藩政時代の財政資料として第一級のものとしてされています。

問4 江戸幕府はキリスト教の信者による一揆や、ポルトガル・スペイン両国による侵略を恐れたこと、経済力のあるキリシタン大名と信者が結びつくことを防ぐこと、などの理由からキリスト教を厳しく禁止し、キリシタン摘発のための絵踏を九州北部を中心に厳しく実施していきました。

問5 出島は長崎港内にあった扇形の埋立地で、1634年に建設されました。役人や指定商人以外の立ち入りは禁止されていました。

問6 松前藩は17世紀以後蝦夷地に進出し、アイヌとの交易を行っていました。対馬藩は朝鮮と、薩摩藩は琉球と交易を行っていて、鎖国下でも国外との交流が全くなかったわけではありません。

問7 (1) 公事方御定書は1742年に完成

した、裁判や刑の基準などを定めた法で、大岡忠相らによって編さんされました。

(2) 目安箱は1721年に評定所の門前に置かれた投書箱で、役人の不正などへの直訴を受け付けました。小石川養生所が設置されるなどの成果がありました。

問8 寛政の改革は徳川吉宗の孫である老中松平定信によって行われました。

問9 間宮林蔵は1808年に江戸幕府の命令により樺太を探検し、樺太が島であることを確認しました。さらにシベリアのアムール川下流地域も探査しました。

問10 幕府が1843年に出した、江戸や大阪周辺の大名領や旗本領を、替え地を与えたうえ、直轄領にしようとした命令を上知令とといいます。上知令は大きな反対をまねき、その結果天保の改革を主導した水野忠邦は失脚し、改革は失敗に終わりました。

問11 ペリーが来航した背景には、アメリカが当時貿易船や捕鯨船に、水や食料、燃料の補給ができる寄港地を必要としていたことがあげられます。

問12 (1) 下田と函館の2港を開港することが定められたのは日米和親条約です。日米修好通商条約で開港が定められたのは函館、神奈川(横浜)、長崎、新潟、兵庫(神戸)の5港です。

(2) 日本の生糸は良質だったため、幕末期の貿易で最も重要な輸出品となっていました。

問13 奇兵隊は長州藩の正規の兵以外で組織された軍隊で、1863年に高杉晋作により組織されました。隊員の約30%は庶民でした。彰義隊は徳川慶喜を擁護するために旧幕臣で構成された隊、白虎隊は会津戦争に際して会津藩が組織した

16～17歳の少年よりなる部隊、保安隊は自衛隊の前身の組織です。

問14 1867年10月に土佐藩と安芸藩が、政権を江戸幕府から朝廷に返上することを第15代将軍の徳川慶喜に申し入れ、これを受け入れた慶喜は自ら政権を返上しました。これを大政奉還といいます。大政奉還の2カ月後には、天皇中心の新政府樹立を目指した王政復古の号令が出されました。

④ 明治～昭和時代の歴史に関する問題

問1 日清戦争は、1894年に朝鮮半島南西部で起きた甲午農民戦争を朝鮮政府が鎮圧できず、支援を求められた清軍が出兵し、日本軍も対抗して出兵したことにより起きました。義和団事件は1899年から1900年にかけて、北清事変は1900年から1901年にかけて、三・一独立運動は1919年に起きています。

問2 (1) 日清戦争の講和会議には、日本側からは当時首相だった伊藤博文と外務大臣だった陸奥宗光が、清側は李鴻章らが参加しました。この会議の結果結ばれた下関条約で、清は賠償金2億テールを払うことを認め、日本はその一部をもとに北九州に八幡製鉄所を建設し1901年に採業を開始しました。

(2) 下関条約で清はイの遼東半島、ウの台湾、エの澎湖諸島が日本の支配下に入ることを認めました。アの樺太は含まれていません。ロシア・フランス・ドイツは遼東半島が日本の支配下に入ることを嫌い、清に返すよう干渉を加えてきました。これを三国干渉といいます。

問3 幸徳秋水は社会主義の立場から、内村鑑三はキリスト教徒の立場からそれぞれ

これ日露戦争に反対しました。与謝野晶子は雑誌「明星」に「君死にたまふことなかれ」という反戦詩を発表しました。市川房枝は女性解放や参政権獲得のために活動しましたが、日露戦争開戦時は11歳でした。

問4 日本は日露戦争では、日清戦争の時のように賠償金を得ることができませんでした。民衆は主にこれに憤激して、1905年に日比谷焼き打ち事件などを起こしました。

問5 日本は第一次世界大戦中の1915年に、中国の袁世凱政権に対して山東半島のドイツの権利を日本に譲ることや、満州などでの日本の権利を広げるなどの内容の二十一か条の要求を出し認めさせました。

問6 満州事変は1931年、日中戦争は1937年にそれぞれ起きました。犬養毅首相は満州国の承認に反対したため1932年に暗殺されましたが、この事件を五・一五事件といいます。この事件の結果、それまで8年間続いていた政党政治が終わり、以後軍人などが内閣をつくるようになりました。ポツダム宣言は1945年、大政翼賛会の成立は1940年、世界恐慌の発生は1929年のことです。

問7 国際連盟は柳条湖事件を調査するためにイギリス人のリットンを団長とする調査団を派遣しました。国際連盟は調査団の報告書をもとに対日勧告案を採択したため、1933年3月、日本は国際連盟脱退を通告しました。

問8 農地改革は第二次世界大戦後にGHQの指示により行われた、農村の民主化などを目的とする改革です。

問9 (1) 朝鮮戦争で必要となった大量の

軍用物資を、アメリカは日本に注文したため特需景気となり、経済活動が活発化しました。バブル景気は1980年代後半に、いざなぎ景気は1965年から1970年にかけて、大戦景気は1915年から1918年にかけてそれぞれ起こった好景気のことです。

(2) 日本はアメリカのサンフランシスコで第二次世界大戦の講和会議に臨み、日本以外の参加国51ヶ国中48ヶ国と平和条約を結びました。日本全権代表として、吉田茂首相が参加しました。それとほぼ同時に、主に日本の防衛のための条約である日米安全保障条約が結ばれました。

問10 第四次中東戦争をきっかけにアラブ諸国が原油価格を一気に引き上げるなどしたため石油危機（オイルショック）が起きました。石油危機により物価が激しく高騰し、トイレットペーパーなど生活必需品が品不足状態となりました。また石油の価格が大幅に上昇したため高度経済成長が終わり、以後低成長時代となりました。産業構造もこれ以降いわゆる重厚長大型から軽薄短小型へ変化していきことになりました。

(記述問題の採点について)

- ・解答の字数制限に従っていない場合…不正解
- ・明らかな誤字・脱字がある場合…－1点
- ・文章・文末表現の不備がある場合…－1点

小学6年 理科 — 解答と解説

1

(1)		(2)		(3)		(4)					
0.6 m		340 m		40 m		680 m					
21		22		23		24					
(5)				(6)				(7)			
①	ウ	②	イ	③	オ	高	く	な	る	25 g	
25		26		27		28		29			

2

(1)		(2)		(3)		(4)					
A		南		ウ		強	い	ウ	弱	い	エ
30		31		32		33		34			

3

(1)		(2)		(3)					
ア・エ		ア		ア・ウ・カ					
(完答) 35		36		(完答) 37					
(4)						(5)			
ア	ミジンコ	イ	ミカヅキモ	ウ	ゾウリムシ	イ・エ・オ			
38		39		40		(完答) 41			
(6)									
生	物	A	は	増	え	て	、	生	物
C	は	へ	る	。					
42									

4

(1)		(2)		(3)	
日の出	ア	日の入り	カ	ウ	午前 11 時 47 分
(完答) 43		44		45	

(4)	(5)	(6)
ウ	ウ	ア
46	47	48

5

(1)		(2)		
①	12.0	②	6.5	B
(完答) 49		50		

(3)	(4)	(5)
38.5 cm	175 g	125 g
51	52	53

(6)	(7)	(8)
12.5 cm	162.5 g	30 cm
54	55	56

- (配点) {
- ① (5)各2点×3=6点
他各3点×6=18点
 - ② (4)各2点×2=4点
他各3点×3=9点
 - ③ (4)各2点×3=6点
他各3点×5=15点
 - ④ 各3点×6=18点
 - ⑤ 各3点×8=24点
- } 計100点

【解説】

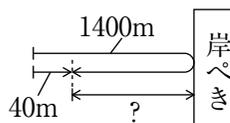
① 音の性質と伝わり方についての問題

(1) 図1のグラフを見ると、音の速さは気温が0℃のとき毎秒331mで、そこから気温が5℃上昇すると、 $334 - 331 = 3$ (m)速くなって毎秒334mになることがわかります。このことから、気温が1℃上昇すると音の速さは、 $3 \div 5 = 0.6$ (m)ずつ速くなるといえます。

(2) (1)より、音の速さは気温が1℃上昇するごとに毎秒0.6mずつ速くなるのがわかっているため、気温が15℃まで上昇すると、1秒間に伝わる距離は、 $0.6 \times 15 = 9$ (m)速くなって、 $331 + 9 = 340$ (m)になります。

(3) 船は1秒間に10mの早さで岸へきに向かって進んでいるので、4秒後には、 $10 \times 4 = 40$ (m)進みます。

(4) この問題では、音が1秒間に進む距離を350mとしているので、4秒間に音が進んだ道のりは、 $350 \times 4 = 1400$ (m)になります。この道のりから船が進んだ40mを引いたものが、船が反射音を聞いたときの岸へきまでの距離の2倍になることから(右図参照)、 $(1400 - 40) \div 2 = 680$ (m)が答えになります。



(5) 音のちがいは、音の大小(強弱)・音の高低・音色の3種類があり、これらを音の三要素とよんでいます。音の大小は振動しているもののゆれはば(振幅)のちがいでよって起こり、音の高低は振動しているものの振動数(1秒あたりの振動する回数)のちがいでよって起こります。

また、振動しているものの材質や形のちがいでよってゆれ方が変化し、音色のちがいでよります。

(6) 振動させる弦を細くすると、ゆれやすくなって振動数が増えるので高い音が出るようになります。

(7) 表の①と②から、弦の太さを $\frac{1}{2}$ 倍にしたときにはおもりの重さを $\frac{1}{4}$ 倍にすると同じ高さの音になるので、弦の太さを、0.6mmから0.3mmへ $\frac{1}{2}$ 倍にしたときは、おもりの重さが100gの $\frac{1}{4}$ 倍となる、 $100 \times \frac{1}{4} = 25$ (g)にすれば同じ高さの音が出ると考えられます。

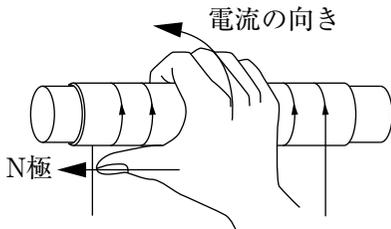
② 電磁石についての問題

(1) 導線に電流を流すと、導線を軸として電流の向きに対して時計回りの磁力線が発生します。図1において、導線の下に置いた方位磁針のN極が少し左に動かされていることから、導線の中を流れる電流の向きはAであると考えられます。

(2) 導線に電流を流す前は方位磁針のN極が北を向いていたはずなので、その北の方向から少しだけ左に磁針が動かされて図1の状態になったとすると、Bの方向が北を示し、Aの方向が南であったと予想できます。

(3) 導線を何重にも巻くことによって、発生する磁力線を強くしたものが電磁石です。導線に流れる電流の向きに右手の親指以外の指を合わせるようにしてにぎり、親指が向いた方向が電磁石のN極になります。図2で、かん電池の+極から出た電流は、コイル(導線を巻いたもの)

の表から裏にいくような向きに流れているので、それに合わせて右手をにぎると親指は左側に出ます。よって、このコイルの左はしがN極で右はしがS極になり、図2の位置に置いた方位磁針のS極が引きつけられてウのようになります。



(4) 電磁石は、導線に流す電流を増やしたり、導線を巻く数を増やしたりすることで強くすることができます。また、鉄しんのような磁石につくものをコイルに通すと電磁石はさらに強くなるため、鉄しんを通して、巻き数も多く、2個のかん電池を直列につないで回路に流れる電流を増やしたウの電磁石が最も強いと考えられます。反対に、磁石につかないガラス棒を通し、巻き数も少ないエの電磁石が最も弱くなります。

③ 水中の生物についての問題

(1) 水草は明るいときに光合成をおこなって酸素を発生させ、メダカは水にとけたこの酸素をえらから取り入れることによって呼吸しています。また、メダカは付着毛のある卵を水草からみつかせるようにうみ、卵が流されたり底の方にしずんだりするのを防いでいます。

(2) 早朝にメスのメダカの産卵の様子を観察すると、しりびれの前の部分から卵を出していることがわかります。

(3) メダカのような魚類のなかまの動物は背骨を持ち、水にとけた酸素をえらから取り入れて呼吸します。また、まわりの温度によって体温が変化してしまう変温動物のなかまにあてはまります。

(4) アはミジンコ、イはミカヅキモ、ウはゾウリムシ、エはケイソウ、オはイカダモです。これらの水中に住む小さな生き物をプランクトンとよんでいます。

(5) イのミカヅキモ、エのケイソウ、オのイカダモの3つはからだの中に葉緑体を持ち、日光のエネルギーを利用して光合成を行っています。

(6) 生物Aは生物Bに食べられているので、生物Bの数が減ることによって食べられなくなり数が増えます。一方、生物Cは生物Bを食べて生活しているので、えさとなる生物Bの数が減ると、栄養が取れなくなって生物Cの数も減ります。

④ 季節と太陽についての問題

(1) 日の出の時刻や日の入りの時刻は、ともに太陽の上のはしが地平線上(水平線上)にあるときのものです。

(2) 地球が西から東に向かって自転しているので、日本では太陽が東の地平線から右上に向かってのぼり、南の空を通り、右下に向かって西の地平線にしずむように見えます。

(3) 1日のはじまりを真夜中の0時とすると、1日目の太陽が南中するまでの時間は、日の出までの時間である4時間41分と、日の入りまでの時間である18時間53分の平均と考えることができます。

したがって、この日太陽が南中するまでの時間は(4時間41分+18時間53分)÷2=11時間47分となり、午前11時47分がこの地点の南中時刻になります。

(4) 1日目の昼の長さは、18時53分-4時41分=14時間12分となっていて12時間をこえていることから、この太陽の観察を行った日は3月20日ごろの春分の日から9月20日ごろの秋分の日の間であることがわかります。また、1日目と2日目では日の出の時刻がおそくなり、日の入りの時刻は早くなっていることから、6月20日ごろの夏至の日を過ぎていることもわかります。これらのことから、あてはまるのは7月22日と23日のうだけになります。

(5) 図において、Dのように地軸が太陽の方にかたむくと北半球の地点では太陽高度が高くなるので、ここに地球があるときに夏至のころです。地球は太陽のまわりを反時計まわりに公転しているのでCが秋分の日、Bが冬至の日、Aが春分の日、地球の位置です。このことから、夏至の日と秋分の日の間にあたる7月22日ごろは、DからCの間に地球があると考えられます。

(6) 夏至の日と秋分の日の間は、太陽は少し北にずれた東の地平線からのぼり、昼に南の高い空を通過して、少し北にはずれた西の地平線にすみます。このことから、日の出の頃にはかげが少し南にずれた西の方角にでき、夕方には少し南にずれた東の方角にできて、かげの先たんはアのような曲線を描きます。

⑤ ばねののびについての問題

(1) ①表を見ると、ばねAに何もつるさないときが4.0cmで、50gのおもりをつるしたときが8.0cmになっているので、ばねAは50gで、 $8.0-4.0=4.0$ (cm)ずつのびることがわかります。したがって、さらにおもりの重さを50g増やして100gにすると、8.0cmから4.0cmのびて、 $8.0+4.0=12.0$ (cm)になると考えられます。

②ばねBについても同様に、つるすおもりの重さを50gから100gへ50g増やすと、9.5cmから12.5cmへ、 $12.5-9.5=3.0$ (cm)のびているので、ばねBに何もつるさないときはおもりの重さが50gのときより3.0cm短く、 $9.5-3.0=6.5$ (cm)になると考えられます。

(2) ばねAは50gにつき4.0cmずつのび、ばねBは50gにつき3.0cmずつのびることから、同じ重さのおもりをつるしても、ばねAよりばねBのほうがのびにくく、強いばねであるといえます。

(3) (1)により、ばねAに何もつるさないときの長さ(これを自然長という)は4.0cmで、50gにつき4.0cmずつのび、ばねBの自然長は6.5cmで、50gにつき3.0cmずつのびることがわかります。このような2本のばねを図1のように直列につないで使うと、自然長が $4.0+6.5=10.5$ (cm)で50gにつき $4.0+3.0=7.0$ (cm)ずつのびる1本のばねとして考えることができます。これに200gのおもりをつるすと、全体で $7.0 \times \frac{200}{50} = 28.0$ (cm)のびることによって、2本のばね全体の長さは、 $10.5+28=38.5$ (cm)になります。

(4) ばねAとばねBを1本につないだばねの自然長は10.5cmだったので、ばね全体の長さが35cmになるのは、 $35 - 10.5 = 24.5$ (cm)のびたときです。ここで、2本をつないだばねに50gのおもりをつるしたときののびが、全体で7cmだったことから、下につるしたおもりの重さは、 $50 \times \frac{24.5}{7} = 175$ (g)であったことがわかります。

(5) ばねAとばねBを直列につないで、下におもりをつるすと、ばねAとばねBには同じ重さがかかっています。2本のばねの自然長は、 $6.5 - 4.0 = 2.5$ (cm)の差があり、50gのおもりをつるすごとに、ばねAは4.0cm、ばねBは3.0cmのびることによって、 $4.0 - 3.0 = 1.0$ (cm)ずつ差が縮まっていくので、ばねAの方が2.5cm多くのびて2本のばねが同じ長さになるのは、 $50 \times \frac{2.5}{1.0} = 125$ (g)のおもりをつるしたときです。

(6) ばねAの自然長は4.0cmなので、20cmになるのは16cmのびたときで、50gにつき4.0cmずつのびることから、ばねAには $50 \times \frac{16}{4} = 200$ (g)の力が加わっていることがわかります。さらに、棒につるした300gのおもりは、ばねAとばねBによって支えられていて、このうちのばねAが200gを支えているので、ばねBには100gの力が加わっていると考えられます。したがって、自然長が6.5cmで50gにつき3.0cmずつのびるばねBは、 $3.0 \times \frac{100}{50} = 6.0$ (cm)のびて、 $6.5 + 6.0 = 12.5$ (cm)になります。

(7) ばねAが11cmになるのは、 $11 - 4.0 =$

7.0 (cm)のびていて、 $50 \times \frac{7.0}{4.0} = 87.5$ (g)の力が加わっているときです。また、ばねBが11cmになるのは、 $11 - 6.5 = 4.5$ (cm)のびていて、 $50 \times \frac{4.5}{3.0} = 75$ (g)の力が加わっているときです。したがって、この2本のばねによって支えられているおもりの重さは、 $87.5 + 75 = 162.5$ (g)になります。

(8) 支点からの長さとその場所に加わる力の大きさの積を『モーメント(まわすはたらき)』といいます。てこは、時計回りのモーメントと反時計回りのモーメントが等しくなったときに、どちらも回転せずにつり合うため、図2において棒の左はしを支点として、このてこのつり合いを考えます。すると、支点から65cmはなれた棒の右はしをばねBが75gの力で支えていることによる反時計回りのモーメントが、 $65 \times 75 = 4875$ になることから、時計回りのモーメントもこれと等しくするためには、支点から162.5gのおもりまでの長さを、 $4875 \div 162.5 = 30$ (cm)にすればよいとわかります。

(記述問題の採点について)

- ・ 解答の字数制限にしたがっていない場合・・・不正解
- ・ 明らかな誤字・脱字がある場合・・・-1点
- ・ 文章表現の不備がある場合・・・-1点

場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点3点とします。

問八 次のようになります。

ア 「ルイ十四世時代のフランスでは……」があやまりです。フランスにおいて古典よりも新しい文化の価値が認められるようになったのは十八世紀からです。

イ 本文の内容にあっています。本文には手本とすべきヨーロッパ近代を失ってしまった日本をとりあげて、「だからこそ、より大きな『写し』の能力が、私たちに求められている」と書かれています。ほとんど手本がかわっていくので、そのスピードに負けずに「写し」とる能力が必要になったというのでしょう。

ウ 「文化や芸術とは縁のない生き方をしている」があやまりです。本文には「文化とは写され、移され、そのことで根づく何ものかである」とか「その過程そのものが文化である言ってもいい」とあります。習字で言えば手本を写すことそのこと自体が文化であり、芸術であるといえるのです。

エ 「休みの日に休まずに働くべきだ」があやまりです。だいたい休みの日に働くこと自体が許されない行為なのです。

4 熟語の組み立てを問う問題です。

① 「書を読む」と読みます。「読む」が動作、「書」が動作の対象となります。ウも同じく「金を預ける」と読みます。

② 「高い山」と読みます。「高い」が「山」を修飾しています。イの「明月」も「明るい月」と読みます。

③ 「年が長けている」と読みます。「年」が主語、「長けている」が述語です。アの「地震」も「地が」「震える」と読みます。

④ 「公開」を「非」ということばで打ち消しています。「非十公開」という形になります。オの「無責任」も「責任」を「無」で打ち消しています。

⑤ 「不死の鳥」と読みます。「不死十鳥」です。エも「非常十口」です。

を使います。

問二 「アこうしたこと」は「そしてけつきよく、今人、すなわち新しいフランス文化の方がギリシャ・ローマの古典文化よりもすぐれている」をさします。それまでは「写す」という行為そのものに価値があつたのであつて、できあがつたものの価値を論ずることはなかつたのですが、これ以後、できあがつたものそのものが大事にされるようになっていきます。

問三 十七、八世紀のフランスでは、長い「写し」の歴史の後で、「写す」ことそのものよりも新しく創造されたものに価値をおくようになったのですが、日本の場合には、まだ「ヨーロッパ近代」の写しが終わらないうちに、写していた「ヨーロッパ近代」そのものが変わっていつてしまったのです。本文に「自ら隣り（模範）を選び、その通りにやる」と書かれている、その「模範」を失ってしまったということになります。

問四 将校という名前が気にいらないので、「耳ざわりだ」と表現しているのです。

問五 本文ではイザヤ・ペンダサン氏の説をとりあげて、日本人の性格は「キャンペーン型稲作」からきているとか、「集団的スケジュールのきびしさ」が「隣り百姓」を生んだのだと説明しています。機械化された現代の稲作では、田植えも稲刈りも少人数でおこなうことができますが、機械化されていなかった時代には、一軒だけでは田植えも稲刈りもできませんでした。それで隣近所の何軒かがまとまって、共同で田植えや稲刈りをおこなったので

す。そうなると、自分の都合で働いたり休んだりできなくなります。あらかじめ決められた「集団的スケジュール」にしたがつて、全員で農作業にあたらなければなりません。ここでは「隣り百姓」としての「社会的同調」や「集団的スケジュール」を守ることが求められます。それが積み重なって日本人の「付和雷同性」が養われていったのです。

問六 「《ア》がないのである」を「独立の計画」というものがない」と言いかえています。「独立の計画」とは「自主性」そのものです。「《イ》をもった行動様式である……」の後そのような行動様式が生まれた理由を説明しています。つまり「合理性」があると仰いたのです。「ウ」の「隣りの百姓がとりいれしっているとき」「わが家だけ……一日おくらせ」るのは「自主性」のなせるものです。「エ」の、「四季の循環の正確で、しかもそれのつとらねば豊作を期待できない」は「集団的スケジュールのきびしい」理由を説明したものです。つまり「合理性」を説明しているのです。「オ」の内容をその後で「……その通りにやるのは立派な一つの自主性であり」とくり返しています。「自主性」が入ります。

問七 その理由は、「もともとは、休みの日にはぜったい働いてはいけない……」以後に説明されています。とくに休みの日というのは仕事を休み、神に祈る、あるいは神を迎える日だということが重要です。それを怠ると「その年のとりいれに大きくひびく」から、休まなければならないのです。

※ 設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある

す。この場合の「色」とは「意図」と言いかえることができるでしょう。裕輔の母親は何の意図もなく、まったく自然なままに発言していたので、厚子もまた、ことばの裏の意図を読むこともなく、すなおな気持ちでうけとめることができたというわけです。

問六 赤ちゃんの肌はやわらかくとてもデリケートです。だから、そんな赤ちゃんの肌をなでるときには、そつと傷つけないようにする必要があります。いまの裕輔もまたデリケートな傷つきやすい状態にありますので、母もそんな裕輔を傷つけないように神経を使っているのだと考えられます。

問七 「無理矢理作ったような穏やかな声」や「慣れない会話なので、互いが少し緊張している」ということばに着目しましょう。男同士はふだんはあまり話をするがありません。ましてや、これは裕輔を上げますための電話です。そこで父は、なんとか「緊張」を解いてスムーズにことばを出そうとして、咳払いをしています。会議の冒頭で発言するときなどにも咳払いをする人がいます。これもまた緊張を解こうとする動作だと考えられます。

問八 「父は息子への励ましの言葉を一生懸命考え……でも存在がありがたい」とつづいています。父と子はめったに話をすることもないので、自分が思っていた以上に、自分のことを思ってくれている父の気持ちを知って、「ありがたい」と心の底から思うようになったのです。

問九 昇太のために料理を作りながら、「ここが青山でもいい」

と思っていることに注意しましょう。厚子も勤めをいやがっていないし、自分もまた主夫も悪くないと考えています。ですから、このまま主夫をつづけるのも悪くないという意味で、「ここが青山でもいい」と発言しているのだとわかります。

2 多田道太郎の「しぐさの日本文化」から出題しました。

優れたものを「写す」ことに全力をかたむけてきた日本。筆者はなぜ日本がそのような「模倣」に価値をおく生き方を身につけたのかを解き明かしていきます。

問一 前後の関係をしっかりとらえましょう。

A 「今人」と「当時のフランス人」とは同じものです。同じものをことばをかえてくり返すときには「つまり」を使います。

B 「隣りの人がカラーテレビを買った」が原因です。この原因から「わが家も……」という現象が生まれます。原因と結果を結ぶときには「だから」を使います。

C 前の「自他ともに笑いのうちに……何気なく使っている」を否定して「もともとは……」という意味だつたのだ」と説明しています。前の内容を否定するときには「しかし」を使います。

D 「四季の循環の正確で」に「それにとらねば豊作を期待できない」をつけ加えています。つけ加えるときには「しかも」

【解説】

1 奥田英朗の「こゝが青山」から出題しました。

会社が倒産してしまい、裕輔は職を失いました。そんな裕輔を見て、周囲の人たちの中には、好奇心むきだしでいろいろ言ってくる者もいれば、本気で同情して、そつと心づかいを見せしてくれる人もいます。

とりわけ、裕輔の代わりに勤めに出た妻の厚子や、子どもを思う親の優しい気持ちにはげまされた裕輔は、厚子の代わりに主夫を務めているうちに、もしかしたら、このままでも自分は幸せなのではないかと思うようになっていきます。

問一 次のようなことばになります。

a やれやれというときや落胆した気持ちを表したりするときには「肩をすくめ」てみせます。

b 数をたしかめるために「指折り」数えたりします。待ち遠しくならないときや、正確にたしかめるときなどにおこなう動作です。

c 他人の行為に対して不快感を示すときに、「眉をひそめます。原田の行為が不快でならなかったのです。

d たいへんおどろいたときに「目を丸く」といいます。裕輔は山科部長が自分もナイス商事につれていこうと計画していたことなどまったく知らなかったようです。

e 「匂い」を感じるのは「鼻」です。

問二 妻の厚子が、パン屋のおばさんに同情されると言ったときに、裕輔はこの老人の話をもちだして、「そういうのなら、こつちのほうが凄（すこ）い」と言ってみたり、老人に会うのをつらいと感じたりしています。老人の行為に、必要以上の同情を感じたのでしょう。あるいは、同情しているふりをしながら自分の好奇心を満たそうとしているように思えたのかもしれません。いずれにしろ、裕輔にとっては不快でならないのですが、そんな気持ちを相手に見せることもできないので、表情を変えないようにしていたというわけです。

問三 この老人の行為はパン屋のおばさんのものと同じ性質のもので、その同情をあらかじめ見せようとするところには、それとは別のおさえきれない好奇心などが感じとれます。

問四 文字どおりに解釈すれば、母親たちは厚子の境遇をうらやましく思っているということになります。しかし、実際には「うちのパパの会社はいつトウサンするの？」という子供のことばにみんな凍りついてしまいます。みんなあえて、裕輔や厚子の境遇への同情をかくしていたのだとわかります。むしろうらやましいぐらいだというのは、もちろん、ウソであって、ほんとうに自分たちもそうなりたいなどと考えているわけではありません。

問五 「無色透明」の反対は、何かの色がついているということ

<div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">5</div> <table border="1" style="border-collapse: collapse; width: 100%; height: 100%;"> <tr><td style="text-align: center;">①</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">調 査</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">59</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">②</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">雑 用</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">60</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">③</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">採 算</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">61</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">④</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">徒 労</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">62</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">⑤</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">構</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">63</td></tr> </table>	①	調 査	59	②	雑 用	60	③	採 算	61	④	徒 労	62	⑤	構	63	<div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">4</div> <table border="1" style="border-collapse: collapse; width: 100%; height: 100%;"> <tr><td style="text-align: center;">①</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">ウ</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">54</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">②</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">イ</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">55</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">③</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">ア</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">56</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">④</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">オ</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">57</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">⑤</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">エ</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">58</td></tr> </table>	①	ウ	54	②	イ	55	③	ア	56	④	オ	57	⑤	エ	58	<div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">3</div> <table border="1" style="border-collapse: collapse; width: 100%; height: 100%;"> <tr><td style="text-align: center;">①</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">オ</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">49</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">②</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">イ</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">50</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">③</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">エ</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">51</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">④</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">ウ</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">52</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">⑤</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">ア</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">53</td></tr> </table>	①	オ	49	②	イ	50	③	エ	51	④	ウ	52	⑤	ア	53	<table border="1" style="border-collapse: collapse; width: 100%; height: 100%;"> <tr><td style="text-align: center;">問八</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">イ</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">48</td></tr> </table>	問八	イ	48	<table border="1" style="border-collapse: collapse; width: 100%; height: 100%;"> <tr><td colspan="4" style="text-align: center;">問七</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">い</td><td style="text-align: center;">っ</td><td style="text-align: center;">あ</td><td style="text-align: center;">も</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">れ</td><td style="text-align: center;">て</td><td style="text-align: center;">る</td><td style="text-align: center;">と</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">に</td><td style="text-align: center;">、</td><td style="text-align: center;">い</td><td style="text-align: center;">も</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">大</td><td style="text-align: center;">そ</td><td style="text-align: center;">は</td><td style="text-align: center;">と</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">き</td><td style="text-align: center;">れ</td><td style="text-align: center;">神</td><td style="text-align: center;">休</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">く</td><td style="text-align: center;">を</td><td style="text-align: center;">を</td><td style="text-align: center;">み</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">ひ</td><td style="text-align: center;">怠</td><td style="text-align: center;">迎</td><td style="text-align: center;">の</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">び</td><td style="text-align: center;">る</td><td style="text-align: center;">え</td><td style="text-align: center;">日</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">く</td><td style="text-align: center;">と</td><td style="text-align: center;">る</td><td style="text-align: center;">と</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">か</td><td style="text-align: center;">そ</td><td style="text-align: center;">た</td><td style="text-align: center;">は</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">ら</td><td style="text-align: center;">の</td><td style="text-align: center;">め</td><td style="text-align: center;">、</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">。</td><td style="text-align: center;">年</td><td style="text-align: center;">の</td><td style="text-align: center;">神</td></tr> <tr><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;">の</td><td style="text-align: center;">日</td><td style="text-align: center;">に</td></tr> <tr><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;">と</td><td style="text-align: center;">で</td><td style="text-align: center;">祈</td></tr> <tr><td style="text-align: center;"></td><td style="text-align: center;">り</td><td style="text-align: center;">あ</td><td style="text-align: center;">る</td></tr> </table>	問七				い	っ	あ	も	れ	て	る	と	に	、	い	も	大	そ	は	と	き	れ	神	休	く	を	を	み	ひ	怠	迎	の	び	る	え	日	く	と	る	と	か	そ	た	は	ら	の	め	、	。	年	の	神		の	日	に		と	で	祈		り	あ	る
①																																																																																																																				
調 査																																																																																																																				
59																																																																																																																				
②																																																																																																																				
雑 用																																																																																																																				
60																																																																																																																				
③																																																																																																																				
採 算																																																																																																																				
61																																																																																																																				
④																																																																																																																				
徒 労																																																																																																																				
62																																																																																																																				
⑤																																																																																																																				
構																																																																																																																				
63																																																																																																																				
①																																																																																																																				
ウ																																																																																																																				
54																																																																																																																				
②																																																																																																																				
イ																																																																																																																				
55																																																																																																																				
③																																																																																																																				
ア																																																																																																																				
56																																																																																																																				
④																																																																																																																				
オ																																																																																																																				
57																																																																																																																				
⑤																																																																																																																				
エ																																																																																																																				
58																																																																																																																				
①																																																																																																																				
オ																																																																																																																				
49																																																																																																																				
②																																																																																																																				
イ																																																																																																																				
50																																																																																																																				
③																																																																																																																				
エ																																																																																																																				
51																																																																																																																				
④																																																																																																																				
ウ																																																																																																																				
52																																																																																																																				
⑤																																																																																																																				
ア																																																																																																																				
53																																																																																																																				
問八																																																																																																																				
イ																																																																																																																				
48																																																																																																																				
問七																																																																																																																				
い	っ	あ	も																																																																																																																	
れ	て	る	と																																																																																																																	
に	、	い	も																																																																																																																	
大	そ	は	と																																																																																																																	
き	れ	神	休																																																																																																																	
く	を	を	み																																																																																																																	
ひ	怠	迎	の																																																																																																																	
び	る	え	日																																																																																																																	
く	と	る	と																																																																																																																	
か	そ	た	は																																																																																																																	
ら	の	め	、																																																																																																																	
。	年	の	神																																																																																																																	
	の	日	に																																																																																																																	
	と	で	祈																																																																																																																	
	り	あ	る																																																																																																																	

小学六年
国語
——
解答と解説

問六
ア
○
イ
×
ウ
○
エ
×
オ
○

問二
エ
問三
模
範
問四
耳
問五
イ

問一
A
エ
B
ア
C
イ
D
ウ

問九
イ

問二
ア
問三
老
人
問四
イ
問五
ウ
問六
エ
問七
緊
張
問八
工

問一
a
エ
b
イ
c
ウ
d
オ
e
ア

問三
先
達

- (配点)
- ① (問一)各3点、他各5点
 - ② (問一)各2点、(問六)各3点、(問七)7点、他各5点
 - ③④ 各3点
 - ⑤ 各2点
- } 計150点